

令和元年8月7日

令和元年

第8回教育委員会定例会会議録

大田区産業プラザ

令和元年8月7日（水曜日）午後2時から

1 出席委員（6名）

小 黒 仁 史		教育長
三 留 利 夫	委 員	教育長職務代理者
弘 瀬 知江子	委 員	
後 藤 貴美子	委 員	
高 橋 幸 子	委 員	
深 澤 佳 己	委 員	

2 出席職員（16名）

教育総務部長	後 藤 清
教育総務課長	杉 山 良 樹
教育施設担当課長	鈴 木 龍 一
副参事（教育地域力担当）	元 木 重 成
副参事（施設調整担当）	荒 井 昭 二
学務課長	政 木 純 也
指導課長（幼児教育センター所長兼務）	岩 崎 政 弘
副参事	早 川 隆 之
学校職員担当課長	池 一 彦
教育センター所長	柿 本 伸 二
大田図書館長	中 平 美 雪
指導課 統括指導主事	塩 野 恵
指導課 指導主事	古 川 大 輔
指導課 指導主事	今 井 洋 登
指導課 指導主事	長 谷 川 俊 和
指導課 指導主事	南 博 幸

3 日程

日程第1 令和2年度使用大田区立小学校教科用図書採択について



(午後 2 時00分開会)

○教育長

それでは、ただいまから、令和元年第 8 回教育委員会定例会を開催いたします。

本日は、小学校教科用図書採択の審議を行いますので、大田区教育委員会会議規則第14条により、教科書採択関係職員も出席しております。

本日は傍聴希望者がおります。

大田区教育委員会傍聴規則第 7 条により、傍聴人は、議場における言論に対して批評を加え、または拍手その他の方法により公然と可否を表明することは禁止されておりますので、よろしくご協力をお願いいたします。

これより審議に入ります。本日の出席委員数は定足数を満たしておりますので、会議は成立しております。

まず、会議録署名委員に深澤委員を指名いたします。よろしくお願いいたします。

それでは続いて、本日の日程第 1 について、事務局職員の説明を求めます。

○事務局職員

日程第 1 は「令和 2 年度使用大田区立小学校教科用図書採択について」でございます。

○教育長

それでは、令和 2 年度使用大田区立小学校教科用図書採択の審議に入ります。

前回、第 7 回定例会におきまして、教科用図書調査委員会、江森委員長及び伊藤副委員長から調査報告がございました。各委員には、教科用図書をお読みいただくとともに、調査報告及び区民・学校意見を参考に、真摯に調査・研究を進めていただいたことと存じます。

今回の教科用図書採択の審議対象は、11教科13種目でございます。

審議は、本日と明日、8 日の 2 日間とし、9 日は予備日としたいと存じます。

これについてご異議のある方はいらっしゃいますでしょうか。

(「異議なし」との声あり)

○教育長

ご異議がないものと認め、審議は 2 日間といたします。

まず本日は、国語、書写、社会、地図、算数、理科の 6 種目について審議を行います。審議が長引くようであれば、幾つかの種目を明日に繰り延べさせていただくということでしょうか。

(「はい」との声あり)

○教育長

よろしいですか。

それでは、種目ごとに審議を行ってまいります。

初めに、国語について審議を行います。国語の発行者は、4者でございます。
それでは、委員の皆様、ご意見をお願いいたします。

○三留委員

三留でございます。

国語は、「光村」を推薦いたします。

国語においても、問題解決的学習として進めていくことが必要であるということが、各者の教科書からわかります。「光村」においても、冒頭に、「国語の学びを見わたそう」があり、学習の進め方として、読む、書く、話す・聞くという各領域で問題解決的学習の過程が示されています。それとともに、読む、書く、話す・聞くことについて題材を整理し、教科書でどのようなことを学ぶのか、見通しを持って学べるようにしています。

また、「考えるときに使おう」というタイトルで、3年では分ける・比べる、5年ではつなげる・広げる、6年では整理・関係・つなぐという視点が示されており、様々な学習に生かすことができます。

「光村」は、教材文の後に、ノートの例、感想の例、整理の仕方の例、話し合いの例、テーマの例などが豊富に示されていて、学習の参考になると思いました。

物語文や説明文の前には扉ページがあり、全体に関わる問いや既習事項、読むためのポイントが示してあります。他者にも見られるところがありますが、学習の見通しを持つのによいと思いました。

また、説明文については、3年生以降、各学年の当初の題材で、練習教材と主教材の2部構成になっているところがあります。練習教材は見開きで構成されていて、上部に、初め、中、終わりを示していて、視覚的に説明文の構造を捉えさせることができます。脚注には、学びのための問いが示され、学び方につながります。ここで身に付けた学習の仕方を使って、主教材を自発的に学習できるというようにしている構成は、主体的な学びという観点からすぐれていると思いました。

説明文に関わって、6年で「プログラミングで未来をつくる」という資料があり、プログラミングに関わる基本的な考え方を示した文章があります。小学校におけるプログラミング学習については、前回の定例会で、プログラミングのよさや生活に役立っていること、また、コンピュータを使って論理的に問題を解決していこうという態度を養うことは、小学校では大切という考えを述べました。国語においても、教科横断的に行うことを意識しているのはよいと思いました。

各学年に、発達段階に即した図書館の活用等に関わるページがあるのもよいと思いました。

1年の当初は、絵を見て、想像を広げながら話す活動をたっぷりとしています。国語学習の初期指導として、大切なことと思いました。50音に関わる唱え歌の表現もよいと思いました。説明文の「くちばし」も、文章と写真を上手に組み合わせしており、1年生の段階に合ったよい教材だと思いました。

2年生の説明文「たんぽぽのちえ」、話す・聞く教材の「あったらいいなこんなもの」は、他者にも似たような教材がありますが、内容構成がすぐれていると思いました。

3年生の説明文「すがたをかえる大豆」は、科学読み物への興味を抱かせます。また、

この学習を生かして、書く指導につなげています。

4年生の物語文「白いぼうし」や「ごんぎつね」、5年生の「大造じいさんとガン」は、どの者も取り上げ、問いを示していますが、光村の問いは、主題や作品の特色と合っていると感じました。

また、各者、5年生や6年生で宮沢賢治の作品が取り上げられています。宮沢賢治の作品は、表現の工夫が多く、子どもに味わわせたいと思っています。「注文の多い料理店」「雪わたり」などが掲載されています。宮沢賢治の作品は、物語の流れや展開におもしろみがある作品、リズムを感じる表現の多い作品、情景描写に特色がある作品など様々ですが、「光村」は、6年生で「やまなし」を載せています。「やまなし」は、すぐれた情景描写が特色の作品です。一読しただけでは、児童にとって難解な作品ですが、指導によって様々な想像が広がられます。

また、「光村」は、「イーハトーブの夢」という題で賢治の生涯を紹介しています。これも、賢治の作品を味わうためには大切になると考えました。

「光村」は、巻末で、1年生は上間で50音等の一覧表、2年生以降は言葉の宝箱を設け、考えや気持ちを伝える言葉、表現に必要な言葉について、発達段階に即して記述をしています。大切な表現がまとまっているように感じました。

以上、光村の推薦理由を述べさせていただきました。

○後藤委員

後藤でございます。

採択にあたり、先ほど教育長からお話もございましたとおり、全教科13種目について、調査委員会からの報告、あわせて学校意見及び区民意見を受け、全教科書の内容、構成・分量、表現、便宜等について調査・研究をいたしました。

その結果、国語につきましては、「光村」を推薦いたします。理由は三つございます。

一つ目の理由としましては、読むことの単元において、段落相互の関係に着目をする学習の最初の単元、3年生で練習教材として見開き2ページに「言葉で遊ぼう」と記載され、次のページを開くと、主教材「こまを楽しむ」とあり、2部教材構成となっていることから、練習教材で学んだ後に主教材で活用できる構成となっている点で、学習効果が高まると考えました。また、練習教材「言葉で遊ぼう」の上部には、初め、中、終わりと記載され、段落相互の関係について、初めて学習する単元として大変わかりやすい工夫がなされているといった点が一つ目の理由です。

二つ目の理由は、5年生単元で、導入ページの設置があり、教材文に関わる挿絵や写真などから学習意欲が高まり、リード文からは見通しを持った学習ができると判断いたしました。

三つ目の理由は、1から4年までが上下分冊、5・6年は1冊の合本であることから、繰り返しを重ねることで定着されると考えられる漢字や言葉の学習において振り返ることができ、復習にも効果が持てると思います。

以上、三つの推薦理由とあわせ、学習指導要領解説における登場人物の相互関係や心情などについて描写をもとに捉えること、また、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述をもとに捉えることとあることから

も、「光村」は全体的に国語科の目標に合致していると捉え、推薦いたします。

○深澤委員

深澤でございます。

国語は、人とのコミュニケーションを豊かにして、自分の気持ちを伝える基礎となる学問であるため、小学生には、国語の時間を通して筋道を立てて考え、自分の考えを持つとともに、想像力を豊かにすることを身につけてほしいという観点から検討いたしまして、その結果、私は「光村図書」を推薦いたします。

筋道を立てて考え、自分の考えを持つという点についてですが、文章を読んだり話したりするときには、まず要点を押さえる必要があります。「光村図書」は、文章を読むときのポイントや自分の考えをわかりやすく伝えるためのルールを各学年に応じて具体的に示し、その上で、話したり、書いたりという実践へとつなげていく形式を一貫してとっているため、自分の考えをまとめて、効果的に相手に伝えるという練習をしやすくと考えました。

想像力を豊かにするという点についてですが、全ての国語の教科書に、「大造じいさんとガン」の話が出てきました。このお話は、72歳のおじいさんが三十五、六年前に体験したガン狩りの話です。ですから、体験時、大造は37歳ぐらいなのですが、そういう前置きがあったのは光村図書だけで、他の教科書は前置き部分を割愛していました。挿絵は、小学生にとって話のイメージを膨らませる大切な一翼を担うと考えますが、「光村図書」では、きちんと前置きを掲載しているために、壮年期で若々しい大造の写真が載っていても違和感を感じませんでした。

「光村図書」は、物語を子どもの目線で捉え、丁寧に編集をしているという印象を受けました。

また、子どもたちの国語力を伸ばすためには本をたくさん読んでもらいたいと思いますが、「光村図書」の「この本、読もう」というコーナーがよいと思いました。どの教科書も、読み物に関連した本を紹介するコーナーがあるのですが、「光村図書」が特徴的なのは、例えば、あまんきみこ「白いぼうし」が読み物として掲載されていると、物語が終わったところに主人公のタクシー運転手である松井さんが出てくるほかのシリーズ本が紹介されています。同じ人物が出てくる物語を何冊も読むと、その人間が会う様々な出来事を一緒に楽しむことができ、興味深い上にたくさん本を読むことになりしますので、大変よいと思いました。

そのほか、「光村図書」は全学年を通して、日本の文化や四季をめぐる単元が多く扱われていること、漢字の広場では前の学年で習った漢字を、例えばまちの絵の中に、鉄橋、坂道、銀行などの絵が描かれて、その横に漢字が掲載されているために、楽しく自然と既出漢字を目にすることができる工夫がなされている点でよいと思いました。

学校意見も区民意見も、「光村図書」に肯定的でした。

以上の理由から、私は、国語の教科書として「光村図書」を推薦いたします。

○高橋委員

高橋でございます。

私も、国語の教科書は「光村」を推薦いたします。

まず1年生が最初に出会うページが「いいてんき」で、校外学習のイラストが続きます。そして、「さあ始めよう」では授業の案内、鉛筆の持ち方、姿勢がわかりやすく、写真とイラストで示されています。初めて教科書で学習する児童にはなじみやすいと感じました。

教材の物語、お話はどれも印象深く、心に残るものでした。

読書活動についても「この本、読もう」、「本の世界を広げよう」があり、単元の物語に関係するものや、紹介されたお話をもっと深める図書の紹介があり、参考になるとともに、読もうという意欲につながるものでした。

「図書館探偵」では、図書室、図書館の案内があり、利用が身近になると感じた内容でした。

漢字の学習も大事だと考えます。これまで習った漢字が文章の下、この本で習った漢字が単元の後に記入され、確認ができます。

1年生の「漢字の成り立ち」は、漢字に興味を持たせ、なれるきっかけになると思います。「楽しいな言葉遊び」の一字増やして言葉を変身させましょうも同様です。

2年生で「質問をしあって詳しく考えよう」では、丁寧な言い方と普通の言い方の使い分けについて考える学習でした。日本語をきちんと学習する内容になっていると思います。

6年生の「みんなで楽しく過ごすために」はグループで話し合おうの中で、伝えるにくいことを伝えることや大切にしたい言葉を学習します。言い方や伝え方は、これから生活していく上でとても大切な学習です。また、古典芸能の世界を学びますが、6年生では古典文化を楽しもうとして、狂言「柿山伏」を役割を決め演じられるようになっています。昔の人の物の見方、感じ方を知ることができます。

付録の学習を広げようでは振り返りができ、学習をより深める内容です。

以上のことから、「光村」を推薦したいと思いました。

○弘瀬委員

弘瀬でございます。

やはり私も、国語は「光村図書」を選びました。

令和元年7月23日に行われました第7回教育委員会定例会で発表されました調査委員会の報告並びに学校の意見、そして943名の区民の意見などの資料をもとに、私自身が本を実際に読みまして、その結果で「光村図書」を選択させていただきました。

専門的なことに関しましては、三留委員が十分にお話ししてくださいましたので、私なりの視点から選ばせていただきました。

1年生の一番最初に出てくる「いいてんき」、初めて先生に渡されて開いた教科書に書かれている絵、隣の友達とおしゃべりをしたり、先生と話をしたり、子どもたちの楽しい元気な声が聞こえてくるように思われます。

各学年に読んでもらいたい本の内容、単元学習に無理のない話が載せてあり、選定が非常にいいと感じました。

中でも「大造じいさんとガン」は、以前からよく使われている話しです。大造じいさん

の年齢が前書きされていて、壮年期のお話であることがわかります。

さらに、漢字の学習もよくまとまっていると思われます。

また、点字が実際に凹凸があり体験することができ、その凹凸をさわることによって、どうして字がわかるのだろうか子どもたちが興味を持つ、そして、今後に発展させていくってくれるのではないのでしょうか。

多くの子どもたちの興味が湧くであろう「光村図書」を、私は推薦いたします。

○教育長

それでは、私も、単元学習の構成が工夫されていて、話すこと・聞くこと、読むこと、書くこと、それと子どもたちの言葉が総合的に高まっていくというところでは、「光村」が一日の長があると思いました。

先ほど、6年生の「やまなし」のお話がありましたが、やはり6年生の単元の中で「鳥獣戯画を読む」というものがございます。カエルとウサギの相撲を題材にした漫画の祖と言われるこの絵巻物ですけれども、それを高畑勲さんが解説している文でございませけれども、その解説の文を学習し、解説の表現の仕方を勉強する、その次に、自分で選んだ日本文化の説明を、その表現方法を生かしながら説明する、表現活動につなげていくという、非常に子どもたちにとっても意欲の持つ、また、力のつく教材であるというふうに思っております。

そういう意味で、言葉の力を高めていくというところでは、「光村」がいいのではないかと考えております。

それでは、審議のまとめをさせていただきます。

国語につきましては、「光村」の評価が最も高かったということでまとめてよろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

○教育長

それでは、国語につきましては、「光村」といたします。

続いて、書写について審議いたします。書写の発行者は、5者です。

委員の皆様からご意見をいただきます。お願いします。

○三留委員

書写は、「光村」を推薦させていただきます。

3年生以上で、考えよう、確かめよう、生かそうといった学習の進め方が冒頭に示されているのがよいと思いました。

また、まとめ欄がしっかりしていると感じました。巻末の大切のまとめ欄は、学年で習った書き方の重要ポイントを示しています。

2年生以上にあるもっと知りたいコーナーの内容は、子どもにとって興味を引くと感じました。

1年生は、初めの見開きページで自分の名前を書こうと記述され、クラスと名前を書く

ページがあり、その後、書写体操、字を書く姿勢、鉛筆の持ち方、運筆練習などについて丁寧に記載されています。また、とめ、はらい、はね、まがり、おれ、むすびの解説や、句読点や促音の文字の書き方などについては、わかりやすく記述してあると感じました。

2年生以上では、原稿用紙、手紙、招待状の書き方などが、発達段階に即して載せられています。必要なことと感じました。

3年生では、毛筆の初期指導があります。始筆、送筆、終筆を意識して書けるよう、確かめようシリーズが巻頭の付録でついていますが、導入時の意識づけには有効と感じました。

6年生には、書写ブックがつけられています。各学年で学習してきた原稿用紙の書き方や手紙やはがきの書き方など、今後の学習や生活で必要になることがまとめられています。書くことについては、筆遣い、点画の組み立て方、筆順と字形などについて、大事なポイントについてまとめています。書写ブックは取り外すことができ、各教科等の学習に生かすこともできると思いました。

以上、総合的に判断して、「光村」を推すことにいたしました。

○後藤委員

後藤でございます。

書写につきましては、「光村」を推薦いたします。理由は四つございます。

一つ目の理由は、硬筆の導入である1年生の運筆練習において、教科書で描かれている手の大きさについて着目いたしました。児童が実際に教科書の上に手を置き、学習をする際に、ほどよい大きさであることから、実感としての学びにつながり、鉛筆の持ち方の学習にも効果があると考えます。また、線を描く際にも、長いものでも2.5センチメートルと、三本の指を動かして書くのに適していると思います。

二つ目に構成です。姿勢、運筆、筆遣い、筆順、字形、文字の大きさと配列が段階的に習得できるように配慮されている点とあわせ、全ての文字や姿勢の写真が見やすく、わかりやすいです。

三つ目は、よい姿勢の合い言葉が「光村」の国語の教科書に掲載されている姿勢の合い言葉と統一されていること、また、「光村」の国語の教科書との文字の関連性があり、文字に対する定着も深まると考えます。

四つ目は分量です。3から6年の毛筆の手本が39点と、様々な文字を毛筆によって学習することで、とめやはらいといった文字に対する基本の筆記認識も養われると捉えます。

また、姿勢についてですが、学校によってはPTA活動と連携した家庭・地域教育力向上支援事業、また、道徳授業地区公開講座などで講座を開き、児童と保護者とが知識を得て認識することで、日常生活においてのよい姿勢を心がけているといった事例もございます。

書写においては、このような文字を書くことについてわかりやすく示されている教科書で、学習に取り組む際の姿勢の定着が実現できるとよいと思います。

以上のことから、「光村」を推薦いたします。

○深澤委員

深澤でございます。

私は、書写については、「学校図書」を推薦いたします。

国語の教科書は「光村図書」を推薦したので、書写についても「光村図書」を推薦したほうがいいかと思いましたが、国語の教科書と書写の教科書でリンクしている部分が余り多くないため、書写の教科書は他者でもよいと考えました。

では、「学校図書」のどこがよかったかということですが、理由は二つあります。

一つは、毛筆についてです。私たちの日常生活で筆を使う機会は余りないため、初めて筆を持つ子どもたちは、毛筆独自の書き方を学ぶ必要があります。そのためお手本は非常に重要ですが、「学校図書」は、例えば月のような一文字を書く場合、お手本は約B5判の片面に原寸大で書いてあり、二文字の場合には、約B5判を見開きに使って書いてあるので、お手本の大きさがほとんど全て、実際に子どもたちが半紙に各大きさと同じになります。そのため、はね、はらい等、毛筆独自の難しい運筆もお手本と同じように書きやすく、また、お手本に半紙を重ねて、筆の運び方を学ぶこともできます。5年生になって四文字になった場合にはほぼ実寸大なので、文字相互間のバランスのとり方も大変わかりやすい、この点が、「学校図書」を推薦する一番の理由です。

二つ目は、小学校3年生から6年生まで一貫して、はがき、原稿用紙、手紙の書き方についての巻末付録があった点です。はがきや手紙を書くという行為は書写で勉強して、書き方のマナーを覚えたからそれでいいというものではなく、日常生活の中で人とのコミュニケーションをとるために使わなければ意味がありません。しかし、小学生も、メールやLINEで用件や意思を伝達する時代となり、手紙やはがきを書く機会が少なくなってきました。「学校図書」はその点を意識して、4年間にわたり巻末付録を掲載している点がすぐれていると思えました。

以上の理由から、私は、「学校図書」を推薦いたします。

○高橋委員

高橋でございます。

書写については、「光村」を推薦いたします。

1・2年生では書写体操があり、指のストレッチをしてから始めようとする試みは大切だと感じました。

大事なとめ、はらい、はね、まがり、おれ、むすびについては、猫のイラストで楽しく、わかりやすい学習になっています。

3年生で毛筆を使った学習が始まりますが、確かめようシールにより、ななめ穂先ちゃん、始筆、送筆、終筆を確かめながら振り返りができるように工夫されています。

基本である書くときの姿勢、鉛筆の持ち方、筆の持ち方は、写真とイラストでわかりやすく示されています。

学習の中では、大切マークで大事なことを知ることができ、学年の終わりには大切のまとめがあり、学んだことを確認できるようになっています。

6年生の書写ブックでは、横書きの書き方、原稿用紙の使い方、手紙の書き方、はがきの表書き、新聞の書き方の工夫、ポスターをつくる時の工夫など、1年生から6年生ま

でに学習したことを日常生活で生かせるよう学習できます。

以上の点から、「光村」を選びました。

○弘瀬委員

弘瀬でございます。

書写は、国語と同様、「光村」を選びました。

書写とは、文字の書き順を正しく、整った字の形、読みやすく書くことができるように授業を進めていくものだと思います。

まず、書く姿勢が大事であると考え、ペッタン、ピン、グウ、さあ書こうと一連の動作を音で表現することは、子どもたちにとって大変なじみやすいものと考えております。鉛筆の持ち方が細かく丁寧に描かれているだけではなく、とめ、はらい、はねるなど、詳しく書かれております。毛筆の筆の運びも、トン、スー、トンなど、やはり音を使って表現しています。この音による表現は、子どもたちの体の中に溶け込んでいきやすいものだと考えております。

基本を教えるときの工夫がとてもよくできていると感じました。

さらに、はがき、原稿用紙、手紙の書き方など、基本となることが重要ですが、これが非常に細かく書かれているのも「光村」であると感じました。

以上より、「光村」を選びました。

○教育長

私も、書写は「光村」がよろしいかというふうに思いました。

書写の指導において中心的な毛筆の指導についてですけれども、毛筆では、やはり筆を立てることであるとか、筆の動き、運び方というのが大事なところになるかと思えます。

「光村図書」は、3年生から6年生まで、初めに筆の持ち方、姿勢、そういうことを繰り返し写真でわかりやすく示しております。こういうような書写の基本を繰り返すことはとても大事だというふうに思いますので、大切なことというふうに思いました。

また、運筆、筆の運びですけれども、入り方、動かし方、とめ方というのが非常に具体的に、写真、図でわかりやすくなっております。

また、赤い朱墨を使った運筆の写真ですね、穂先がどこを通っていくのかとか、そういう細かいところまでよくわかるかなというふうに思っております。おれであるとか、はらいであるとか、そういう一つ一つの指導がわかりやすく学べるのではないかというふうに思って、私も「光村」を推したいところでございます。

それでは、審議のまとめをしたいと思えます。

審議では、「学図」を評価するご意見もございましたけれども、「光村」を評価する意見が多かったようでございますので、書写については、「光村」が最も評価が高かったということでまとめてよろしいでしょうか。

(「異議なし」との声あり)

○教育長

それでは、書写につきましては、「光村」といたします。

続いて、社会について審議いたします。社会の発行者は、3者あります。

委員の皆様のご意見をお願いいたします。

○三留委員

社会につきましては、3者のうち、「東書」を推薦いたします。

今回の教科書は、各者教科書の冒頭ページに、学年で学ぶことの概観、前の学年の振り返り、社会科の学習の進め方を示すなど、学び方や見通し、学習の系統というようなことを従前以上に意識しているような気がいたします。

そういう中で「東書」は、各学年で学び方コーナーが設けられています。見る・聞く・ふれる、読み取る、あらかず・伝えるの三つの観点から、様々な学びの形を記述しています。資料の活用を力をつけたり、表現力を高めたりする部分も有効と考えました。巻末には、単元の学習の振り返りのほか、どのように学んだか振り返ろうというページがあり、見方・考え方も意識して、自分の学び方を見直すページが設けられています。

また、各者、問題解決的学習の徹底を図っています。「東書」は、つかむ、調べる、まとめる、さらに広げる、あるいは生かすという学習過程を明確にし、多様な学習活動を展開しています。各学年に学習の進め方ページがあり、問題を設定してまとめるまでの流れが、見開きでわかりやすく記述されています。

各者が単元の学習の中で設定している学習問題の多くを比較してみましたが、「東書」の問題は、単元のねらいとなる学習指導要領の記述や子どもの発達段階になじんだものになっているというように感じました。また、つかむ、調べる、まとめる等の段階と、各時間の課題がそれぞれ見開きの初めに明示されているのは、指導者にとっても学習者にとっても、問題解決的学習を進める上で使いやすいと思いました。

さらに「東書」は、社会的な見方・考え方という視点から、位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係、比較、分類、総合、関連などを意識して、各時間の問いを作成しています。

また、まとめの時間の学習については、私は、様々な表現活動をしていくことが大切と思っています。まとめの表現活動は、調べたことを整理、考察して、作品づくりや発表につなげていく重要な役割を果たしています。また、獲得した知識の定着という意味でも、大切な活動です。「東書」は、まとめの表現活動の例が豊富で充実しているように感じました。負担にならない程度のポイントを押さえた書き込み欄もよいと思いました。

内容構成にも工夫があると感じました。例えば5年生の国土単元では、国土の地形の概観をしてから、地形条件に適応した地域の学習、日本の気候を概観してから、気候条件に適応した地域の学習をしています。こうした流れは、子どもにとって理解しやすいと考えました。

また、今回の学習指導要領改訂にあたって強調されていること一つに、社会の形成に主体的に参画しようとする資質の育成があります。社会参画という視点で教科書を読んでいくと、意図的に記述されていることがわかります。調査委員会報告に、「東書」は、学習指導要領の内容の取扱いに選択・判断が示されている単元に、生かすページが設けられ、

自分たちにできることなどを考えたり、選択・判断する学習ができるとありますが、この生かすページのほとんどが、社会参画を意図したものになっており、社会の主体的な参画を促したり、様々な立場を考えた話し合いをしたりする場面の設定をしています。3年の火災や事故、4年の水や廃棄物、5年の食料生産、6年の政治・国際の単元などに見られます。4年生の住みよい暮らしをつくる、ごみの処理と利用の単元で、自分たちにできることを考えようという参画に関わる書き込み欄などは効果的と思いました。

各者の教科書で、4年と5年で、大田区が取り上げられています。

日文の4年、下水の処理と再利用の選択単元で、日本で一番大きな水再生センターとして、航空写真とともに森ヶ崎水再生センターが取り上げられています。都内における森ヶ崎水再生センターの位置をあらわす地図が載せられ、多摩川に関わる話題や活動も触れています。同じく4年の地域の発展に尽くした人々の単元で、郷土の偉人という囲みの中で、大田区とゆかりの深い川端龍子が取り上げられています。

5年生では、「教出」と「東書」で、運輸に関する資料としてトラックターミナルが紹介されています。教出は、本文に大田区、トラックターミナルという記述はなく、貿易を支える港と輸送手段というタイトルのページの6点ある写真資料の一つとしての扱いです。写真の下に、「トラックターミナル東京都大田区」とタイトルがありますが、一般的な内容のキャプションがついているのみです。

一方、「東書」は、教出よりも写真も大きく、キャプションの内容も京浜トラックターミナルに即した内容になっています。本文も、大田区、広いトラックターミナル、空港などのキーワードがあり、トラックターミナルの役割も書かれています。また、羽田空港、京浜島、大田市場、平和島などの名称の記載が入った地図の中で、トラックターミナルの位置を示しています。

5年生の工業単元は、「教出」と「東書」の2者が大田区について記述しています。ここでも、記述の特色が見られます。

教出は、金属部品の部品工場を取り上げ、工場や部品の写真とともに大田区内の歯車をつくっている工場の人のお話を載せています。テクノFRONT森ヶ崎も紹介されています。また、これからの工業と私たちの暮らしのページの人の命を救う精密機械というコラムの中で、大田区にある人工の心臓を開発する工場も取り上げられています。

「東書」は、これからの工業生産と私たちの単元で、冒頭の見開きページの写真の一つとして、大田区の中小工場の様子がわかる概観写真が載せられています。また、大田区の金属のへら絞り工場が写真と文章で取り上げられています。大田区の業種別工場数の割合のグラフも載せられ、京浜工業地帯や全国と比べての特色をつかむことができます。

どちらも、大田区の工業の重要性を認識して取り上げていることは評価できます。ただ、2者の記述内容を比較すると、「教出」は「大工場と中小工場のちがい」というタイトルで、大田区の工場が中小工場の一例として紹介されているにすぎません。中小工場の事例地としては、東大阪市が取り上げられています。日文の事例地も東大阪市です。東書は、タイトルが「高い技術をほこる工場が集まる大田区」とあり、事例地としての扱いです。本文の内容には、世界にもここにしかない大田区オンリーワンの技術、オンリーワンの技術は、国内外で評価されています、高い品質の製品などの言葉が見られます。また、大田区で行われている工場同士の協働により仲間回しと言われる取り組みについて、「み

んなの技術を持ち寄ると、とても高品質なものができます」との記述があります。

なにより、ページの初めに側注等で示される課題、よくいわれる本時のめあての記述に大きな違いが見られます。「教出」は、大きな工場と小さな工場では、それぞれどのような生産の特色があるのだろうかとなっているのに対し、「東書」は、ものづくりのまち大田区が誇る技術は、どのようなものになっているのでしょうかとなっています。まさに、「東書」は、大田区のおよび大田区の工業生産の特色を学ぶ学習になっています。大田区の子どもに、客観的な見方として大田区の工業のおよび特色について知らせることは大切ではないかと思っております。

また、「東書」の5・6年生だけ2分冊になっていることについては、賛否があると思います。特に6年生は、歴史編、政治・国際編と分けられており、学習指導要領の順序性との違いから、指導しにくいのではないかという指摘もあります。しかし、歴史編、政治・国際編ともに1学期当初に配られるということもあり、大きな問題はないと思います。むしろ、歴史編であれば、歴史的な内容が1冊にまとめられていたり、索引が歴史的内容の用語のみの掲載となっていたりするなど、使いやすい面があります。

以上、総合して、「東書」を推薦いたします。

○後藤委員

後藤でございます。

社会についてですが、3・4年生では地域の学習であることから、教科書のほかに大田区で作成している副読本を使用していること、また、5・6年生では、教科書に加えて資料集を使用し学習を進めていることから、教科書で学ぶ視点について着目し、私は、「東京書籍」を推薦いたします。具体的な理由として、五つございます。

一つ目の理由ですが、地域が教科書に取り上げられていることで、学習に対する関心が高まるとともに、地域への思いが深まると捉えたことから、5年生、大田区のトラックターミナルが紹介され、また、「高い技術をほこる工場が集まる大田区」というタイトルで大田区の中小工場を紹介されていることなど、児童の学習意欲の向上に期待できると考えることから、大田区のものづくりに対しての児童の認識もさらに深まるとよいと考えます。

二つ目の理由は構成です。全体として、つかむ、調べる、まとめるが各ページに記載され、つかむでは、学びのポイントや学び方コーナーとあり、問題を把握するための資料提示がございます。調べるでは、「やってみよう、わからなかった言葉」として、例えば3年生では品質や地域貢献とあり、単元学習の一連の中で言葉の意味を調べる学習ができることは、学習効果も高まると考えます。まとめるでは、学習問題として取り組むことができ、学んだことを確認できると考えます。また、このような一連の構成となっていることで、児童、教員にとっても学習計画が立てやすく、学習の進め方にも効果があると言えます。

三つ目に、社会科として学ぶ最初の学年3年生では、店で働く人の単元でスーパーマーケットが写真で掲載されており、全体のイラストとあわせ、実際の写真では商品の陳列棚や品出しの様子、調理場、事務管理室などが掲載され、実際に児童が近隣の商店街やコンビニエンスストアなどに行く学習をする上での事前学習としてもイメージを持ちやすく、

学習の手だてとなると考えます。また、白地図の挿絵がわかりやすく、地図の見方への導入にもつながると捉えます。

四つ目が4年生、残したいもの・伝えたいものとして、様々な県内の伝統・文化が記載され、実際の地域の方の話が記されており、年表にまとめられていることでとてもわかりやすく、年表の読み取り学習の導入になると考え、その後の年表づくりの発展的学習になると考えます。

五つ目が6年生の学習で、新学習指導要領に沿い、歴史編と政治・国際編が1学期に配布されるということから、歴史から学習することもでき、現代社会にもつながる関心が高まることも考えられ、よいと思います。

また、全体として、各学年に合わせた文字の大きさもよく、挿絵が鮮明で、イラストと写真とのバランスもよく、本文の文字のポイントは大きく表示され、キーワードについては太字で記載されており、とてもわかりやすいです。

以上、五つの理由から、「東京書籍」を推薦いたします。

○深澤委員

深澤でございます。

私は、社会の教科書として「東京書籍」を推薦いたします。

5・6年生の教科書が分冊になっており、特に6年生の教科書においては、歴史と政治・国際が分かれているところが使いやすいと思いました。

歴史についてですが、学習指導要領では6年生の社会を105時間配当しており、歴史は71時間程度で、縄文から近現代まで学びます。ということは、小学生では細かな知識を詰め込むのではなく、大きな流れをつかむことが大切となってきます。

「東京書籍」では、一例を挙げると、天平時代を学習指導要領で学ぶべき人物とされている聖武天皇を中心に行基や鑑真の活躍を紹介しています。行基は、東大寺の大仏をつくる時に民衆の参加を呼びかけ、大仏づくりに貢献しました。鑑真は、弟子の中から日本に渡来する僧を推薦するよう聖武天皇から依頼を受けましたが、弟子たちが引き受けようとしないうえ、自ら弟子を連れて日本に渡来することを決意しました、というようにです。聖武天皇は大仏をつくった、行基は人々のためになる橋や水路をつくり仏教を広めてきたため、人々に慕われてきた、鑑真は渡来して唐招提寺をつくったというような断片的な知識でその時代を学ぶものではありません。同じ時代に生きた人々の間でどのような関わり合いがあったのかという観点から記載されているので、歴史上の人物を大きな流れの中でつかむことができる、それが「東京書籍」を推薦する一番の理由です。

そのほかでは、私は法律家ですので、憲法や三権分立の分野についても検討いたしましたが、内容的にはどの教科書もよいと思いました。

「東京書籍」は、つかむ、調べる、まとめるという構成になっていますが、日本国憲法の単元のまとめるでは、基本的人権、国民主権、平和主義という原則が私たちの暮らしとつながっていることについて考察することになっています。あまり私たちに身近に感じられない憲法ですが、自分たちの暮らしにどのように関係しているのかを具体的に考える機会を与えるという視点が、これからの未来を担う子どもたちにとって大変いい勉強になると思いました。

三権分立についてですが、国会についてはその働きと予算成立の流れ、行政は内閣の仕組と働き、司法は裁判の仕組と10年前に施行された裁判員制度、また、三権の相互関係がわかりやすく図式化されており、よいと思いました。

以上から、私は「東京書籍」を推薦いたします。

○高橋委員

高橋です。

社会については、「東書」を推薦いたします。

写真、資料、文字のバランスがよく、読みやすいと思いました。また、文字については大きく、キーワードは太字になっていてわかりやすいと思います。

学習の進め方は、「つかむ」気づいたことや疑問に思ったことを話し合い学習問題をつくろう、「調べる」いろいろな方法で調べよう、「まとめる」わかったことや考えたことをまとめようと分かれており、何を学習するのか明確にわかります。

学習指導要領の内容の取扱に「選択・判断」が示されている単元では、「生かす」ページが設けられ、学習したことを次の学習や生活に生かそうとして、自分たちにできることを考える学習ができるようになっています。

大田区のトラックターミナルが「全国へ運ばれる工業製品」の中で紹介され、「日本の工業生産の特色」では大田区の中小工場、「高い技術を誇る工場が集まる大田区」ではへら絞り加工の職人さんなど、ものづくりのまち大田区が誇る技術を紹介したページがあり、学習に対する関心が高まり、地域に対する愛情が深まることなどの効果が期待できます。

6年生は、政治・国際編と歴史編の分冊になっており、使いやすいと感じました。

以上の点から、「東書」を選びました。

○弘瀬委員

弘瀬でございます。

私も、社会は「東京書籍」を選びました。

区民の方々が社会科の教科書に大変関心をお持ちであることが意見を読ませていただいてよくわかりました。

私は今回、大田区の工場が取り上げられているという本を選びました。「高い技術を誇る工場が集まる大田区」、目の不自由な人でも文字を確かめられる工業製品がつくられていると紹介されれば、どんな製品だろうかと興味が湧いて、さらに学習意欲が高まると思います。

トラックターミナルから全国に運ばれる工業製品とトラックターミナルについて紹介されれば、トラックターミナルとは大田区のだの辺にあるのだろうか、やはりこれも、子どもたちにとっては興味の湧くところではないでしょうか。

そのほかの出版社でも、森ヶ崎水再生センターが紹介されているものもありましたが、私は「東京書籍」の中のこの二つの工場の紹介が、非常に子どもたちにとって興味が湧くのではないかと感じて選びました。

また、「東京書籍」では華岡青洲を紹介し、世界で初めて全身麻酔による乳がんの手術

が成功したと紹介されています。新たに始まった「がん教育」につながるものと考えております。

6年生では、政治編と歴史編に分けられているので、使い勝手がいいのではないかと考え、「東京書籍」を選ばせていただきました。

○教育長

私も、「東京書籍」が大田区の産業、ものづくりを取り上げている点、また、その取り上げ方がオンリーワンの技術力を生かす、これからの仲間回しであるとか、高い技術を持ち寄る、そういうような大田区の特徴を捉えているというところで、子どもたちには、ぜひそのことについて考えて、見学していただきたいと思っております。

教科書に出てくる工場を訪ねることや、そこの方にお話を聞くという直接的な活動は、子どもたちの社会に対する関心、それから理解を非常に深めるものであると思っておりますので、今後の社会科の課題解決、自ら社会の事象に関心を持って、調べて、解決し、伝えていくという問題解決型の学習を進めていく上では、「東京書籍」の取り上げ方は、教科書としてふさわしいと思っております。

また、教科用図書調査委員会の報告にもありましたが、学習指導要領の内容、選択・判断というところが示されている単元、生かすというページがあります。そこでは、自分たちでできることは何か考えて判断する、そういうような学習もあるのですけれども、そこでも、やはり大田区の産業の特色、生活を支える製品づくりであるとか、今後の産業のあり方について触れているというところで、大事だと思っております。

主体的な産業について、また、社会について課題を持って調べていく、そういうような主体的な深い学びを行う上でも、東京書籍の教科書が一日の長があるのではないかと考えております。

それでは、審議のまとめに入ります。

社会科におきましては、「東京書籍」の評価が最も高かったというふうにまとめてよろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

○教育長

それでは、社会については、「東京書籍」といたします。

続いて、地図について審議いたします。地図の発行者は、2者あります。

委員の皆様のご意見をお願いいたします。

○三留委員

地図につきましては、2者のうち、「帝国」を推薦いたします。今回から、地図は3年生から使用するというので、2者ともに、地図への親しみやすさを意識しているように思いました。

「帝国」は、表紙の絵も含め、3年生から、わかりやすさ、親しみやすさを考慮していることを感じます。冒頭のページは、2者とも観音開きの世界地図になっています。どち

らも最初のページということで、記載内容を精選して、シンプルなものにしています。

「帝国」は、日本とつながりの深い主な国々が入っています。主な国の国旗や民族衣装が載せられています。また、日本の位置についての問いかけもあります。「東書」は「地図の冒険に出発」というタイトルで、世界各地の特色ある文化遺産、生物、スポーツ、催し物などのイラストを載せています。

今回の学習指導要領によりますと、3年生の「消費」の単元で、地図等を使って国の名称と位置を調べる活動を行うことになっています。その意味からも、「帝国書院」の扱いがよいと思いました。

世界地図の裏ページの日本を眺めてみようでは、北海道から南西諸島・沖縄まで全てを入れた位置関係そのままの地図が載せられています。これもいいと思いました。

「帝国」は、この後、巻頭12ページにわたって「地図って何だろう」「地図のやくそく」「地図の使い方」のタイトルで、地図の基本的な扱い方が記載してあります。冒頭に地図と俯瞰図の比較がありましたが、捉えやすいように思いました。全体的に地図帳の基本に関わる記述が丁寧で、見やすく感じました。例えば、地図記号を初めは大きく示したり、絵地図と地図記号を使った地図を比較したりしています。地図帳の使い方のページでは、地形や土地利用、索引などのことについて丁寧に示されています。地形の入った地図は色がはっきり出ているわりに、きつい感じがしないのもよいと思いました。

今回の「帝国」の大きな特色は、各地方周辺も載せた広く見渡す地図が入っていることです。位置関係や広がりなどがよく捉えられます。各地の地図と比べて、地図に盛り込む情報量を精選してあるため、地図の初期指導にも使えると思いました。

世界地図の最初のページは、「帝国」がアジア・オセアニアで、オーストラリア全土やニュージーランドが入っています。「東書」はユーラシア・北極となっていて、どちらも特色を感じますが、やはり日本の位置関係を最初に感じさせる地図としては、アジア・オセアニアがよいと思いました。

また、自然災害については、記述に特色が見られます。「東書」は日本の自然災害のページで、地図上の地点と地震、風水害、火山災害などの災害名が線で結ばれており、どこでどのような災害が起きたのか、観音開きのページで、日本で起きた多くの災害が一目でわかりやすく示してあると思いました。

一方、「帝国」は、日本の自然災害と防災のページで地震を中心にして地図であらわしています。世界の地震の分布地図もあります。学習として、主に地震が事例あれば、こちらが使いやすいかもしれません。地図上に、主な台風、豪雨、豪雪地点もあらわしていて、ページ下段では、台風の進路、火山災害、雪害、水害、津波について触れています。

さらに、「帝国」では災害を防ぐ工夫のページがあり、自然災害への備えや防災への取り組みを扱っているページがあります。防災マップづくりにも触れています。避難について考える問いかけもあります。防災教育との関連で活用できると思います。

また、「帝国」には、多くのページに地図マスターへの道というコーナーがあり、地図に関する興味を誘う問いかけが示されていて、授業で活用できると考えました。

地図は、「帝国」がよいと考えました。

○後藤委員

後藤でございます。

地図については、「帝国書院」を推薦いたします。理由は三つございます。

一つ目の理由としまして、新学習指導要領での、3年生から配布されるということから、使いやすさという点に着目し、中部地方で山地が浮き出て見えるように工夫がなされ、地形の起伏が見られるとともに、尾根がとてもわかりやすく見やすいです。

二つ目の理由は、内容として各ページに地図マスターへの道というコーナーがあり、巻末には、できた数だけ丸を塗り潰すつくりとなっており、児童に興味関心及び学習意欲を持たせるよい工夫と捉えました。

三つ目は索引の文字が5種類に色分けされており、とてもわかりやすく、児童が見て楽しくなるような表示とともに、調べやすいという点です。

最後に「東京書籍」、「帝国書院」とともに製本が堅牢であり、4年間安心して使うことができるという点では、2者ともによいと思います。

以上の理由から、私は、「帝国書院」を推薦いたします。

○深澤委員

深澤でございます。

私も、「東京書籍」を推薦いたします。

三留委員もおっしゃっていたように、学習指導要領では、3年生で都道府県、国の名称、位置など地図帳を利用して調べるようにすることとされていますが、まず巻頭に、「地図のやくそく」「地図帳の使い方」がわかりやすく記載されており、これから地図を扱う子どもたちにとって導入しやすいと思いました。

頭に簡易な世界地図と日本を中心とした隣国を記載した簡易な地図がそれぞれ見開き3ページにわたって掲載されているので、初めて地図の勉強をする子どもたちが、世界や日本と近隣諸国を概観できる場所も使いやすくてよいと思いました。

全体的にシンプルで見やすいのですが、特にアメリカ合衆国を各州で色分けしている点、ヨーロッパ各国を、例えばドイツはオレンジ、フランスは緑などと色分けしている点なども大変見やすいと感じました。

また、日本の産業の様子では、農産物、水産業、工業の分布、航空路を単純化してわかりやすく説明していること、防災の資料が充実しており、統計資料も豊富である点もよいと思いました。

以上の理由から、私は「帝国書院」を推薦いたします。

○高橋委員

高橋です。

私も、地図は「帝国」を推薦いたします。

まず最初に、目に馴染む色遣いで、きれいで見やすいと思いました。

「地図って何だろう」では、上から見た土地の様子を描いたものとして、学校を中心に確認できるようになっています。「地図のやくそく」では、方位、地図記号、距離の求め方がイラストで学習できます。次に、「地図帳の使い方」で、記号と陸の高さや土地の使

われ方を色であらわすこと、索引、縮尺について調べ方が学習できるようになっています。

各ページに地図マスターへの道というコーナーがあり、地図の活用技能を高める問題が示され、楽しく学習できそうです。

世界地図は各国の紹介が写真で示されていて、興味をもって学習できます。

「自然の様子」の中では、自然災害と防災について地図の中から学べる工夫があり、参考になります。

巻末の索引では、地名を都道府県名は赤い太字、県庁所在地は赤字、歴史地名を青字、世界文化遺産・世界自然遺産を緑字、その他の地名を黒字と分けてあり、わかりやすく、索引を見るだけでも学習になると思いました。

以上の点で、私は「帝国」を選びました。

○弘瀬委員

弘瀬でございます。

私も、地図は「帝国書院」を選びました。

地図帳は2者とも丈夫な材質で、長い期間使うことに適したものだと思います。

地図帳を開くと、国の名前がカタカナと英語で書かれており、英語の勉強も同時にでき、さらに特産物も書かれていました。来年の東京2020オリンピック・パラリンピックで国旗、国名など、地図を見ながらどこにこの国はあって、隣国はどこであろうとか、楽しく地図帳を利用することができるのではないのでしょうか。

都道府県の字が大きくて見やすいと思いました。

「地図帳の使い方」や「地図のやくそく」のページがあって、使い方が丁寧に説明されていました。

手話であらわす都道府県のコーナーがあり、自主的に手話を勉強するきっかけになればと思っています。

地図マスターへの道で自習できるようになっています。

巻末に、まとめの塗り潰しコーナーがあり、地図マスターへの道で正しく答えられたら塗り潰し、自ら進んで学習するなど、本人のやる気を起こさせるコーナーであると考えました。

以上より、私は「帝国書院」を選びました。

○教育長

私も、「帝国」がよいと思いました。

3年生から使用するというので、10ページにわたって広く見わたす地図ということで高学年と少し違い、簡単に、わかりやすくした日本地図が載っていると思います。やはり地理的な関心、知識というのは、3年生のうちから養っていくことが大事なかなと思いますので、「帝国」がいいと思いました。

また、12ページにわたって地図の見方という、非常に基本的なことがまとめてあって、これも3年生から、中学年から、しっかりと地図の見方について理解して、興味をもって、この地図を使い続ける一つのきっかけになるかなと思いました。

見やすさというところで、「帝国」のほうが少しすぐれているのかなと思っており
ます。

それでは、審議のまとめに入りたいと思います。

地図につきましては、「帝国」がよいということでまとめてよろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

○教育長

それでは、地図については、「帝国」といたします。

続いて、算数について審議いたします。算数の発行者は、6者あります。

委員の皆様のご意見をお願いいたします。

○三留委員

算数は、「東書」を推薦いたします。

算数は、各者、問題解決学習の徹底を図る内容になっていると感じました。その中で、「東書」は、2年生以上の上巻の学びのとびら欄に、問題把握、自力解決、集団検討、まとめと振り返りに関わる問題解決の過程が発達段階に即して書かれています。さらに、マイノートをつくろうというページで、問題解決のためのノートづくりの典型例と作成のポイントが載せられているのがよいと思いました。

吹き出しのコメントがポイントを突いており、まとめの欄では内容をコンパクトにまとめています。補充問題や発展問題へつなぐ工夫もあり、内容も充実していると思いました。

どの者も、子どもの発見や発想を引き出すことを意図してつくられているように感じます。その中で「東書」は、全体にわかりやすさと考えることのバランスを意識した教科書であると感じました。

また、「東書」は、様々な教材開発、教材の特色が見られます。例えば、3年の三角形を調べる学習では、多くの会社が、色ストローか色棒を使って三角形の仲間分けをしているのに対して、「東書」は、円の中心や周りの点を直線で結んで三角形を書かせ、仲間分けをさせています。どちらもよい考え方ですが、実際に移動して仲間分けをしたり、ノートなどに整理するとき、「東書」の方法はよいと思いました。

また、「東書」のページ構成の特色として、単元の学習に入る前に、既習経験に関わるページを入れているところがあります。積み上げ教科である算数においては、系統的な学習を進める上でも大切なことと思っています。そのほか、このページでは、関連する興味を高める内容も記載しています。

「東書」は、1年生に「さんすうのとびら」という別冊をつけているのが特色です。これだけをA4判にして、書き込み欄などを大きくしています。1年当初の児童にとっては、書き込み欄が広かったり、ブロックを教科書に載せて学習できたりするなど、操作的な学習がしやすいのではないかと考えます。

以上を総合して、「東書」を推薦いたします。

○後藤委員

後藤でございます。

算数については、「東京書籍」を推薦いたします。理由は五つございます。

一つ目は、1年生の導入として、A4判「さんすうのとびら」がございます。イラストが大きく、学習の中で実際に数字とつながる挿絵や実物の写真が示されており、ブロックを使って学習するページでは、実物と同じ大きさのブロックが示されたり、数字を書くページについては、授業で使用するノートと同じ大きさの升目が記されていることから、実際にブロックを置いて数の認識を確かめることができたり、書くことにおいては、ノートに移行するとき、またはノートから移行したとき、ノートと併用する際のどの場面でも、児童が抵抗なく、親しみやすく取り組めることと思います。このことは、視覚的な理解が望めると考えることから、全体的に視認性を高めたユニバーサルデザインとしていることも、算数を初めて学習する1年生の児童にとってとても大切な要素と言えます。

二つ目に、鉛筆による筆記適正、書きやすさです。新開発の用紙を使用していることで、とても書きやすく、鉛筆の運びが滑らかで、書くことがスムーズに進められるという点で評価をいたします。また、ページを開いた際、中心部にたるみがなく、書くことを主としているワーク的要素にも適していると考えます。

三つ目に学習内容ですが、目次の1、仲間づくりと数では33ページにわたり、同じ数の仲間を探そう、いくつといくつ、ゼロという数を学習し、目次の2、何番目では4ページでの学習となっており、1年生算数の学習で最初につまずきやすいと考えられる単元、何番目において丁寧な説明がなされている点もよいと思います。

四つ目ですが、目次1の単元で、1から5までの書くこと、数えること、足し算を学習し、次に、6から10までを同じように学習し、数字を並べたり比べたりなどを含めながら、繰り返し学ぶ構成となっており、10までの数の概念を学習した後に、ゼロという数としてゼロの概念を学び、次の目次2、何番目に進む流れという点も、児童にとって数字に対する整理がつきやすく、数の概念の定着が見込めると思います。

五つ目は、2から6年まで、例えば「新しい算数6プラス」と、教科書のタイトルにプラスとつき、補充問題とおもしろ問題にチャレンジと2部構成で、それぞれ10ページ前後あり、答えも別ページがございます。そのページには、指導者・保護者の皆様へと記載があり、自ら必要に応じて取り組むためのオプション教材であり、全ての児童の学習対象としなくても差し支えありませんと記述があります。このようにオプション教材があることで、児童に合わせた取り組みが可能であること、また、保護者にとっても、家庭学習などで活用することも可能と考えることから、よいオプション教材だと思います。

また、巻末には振り返りコーナーがあり、各学年のこれまでの学習で確実に覚えたいことや理解すべきことが一目でわかるように、3から6年は見開き2ページに、2年は1ページに、1年は1年の復習として教科書巻末に4ページで、それぞれ簡潔にまとめられており、見やすく、わかりやすいです。日ごろの学習の復習や確かめ、また、テスト前などの自主学習等に活用することで、深い学びにつながると考えます。

以上の点で、私は「東京書籍」を推薦いたします。

○深澤委員

深澤でございます。

私は、「東京書籍」を推薦します。

後藤委員もおっしゃっていたように、1年生の教科書別冊で「さんすうのとびら」というワークブックがありますが、数字の概念を学んだり、いくつといくつを学ぶときに、黄色と白のブロックを使い、このワークブックは升の大きさがブロックと同じなので、子どもたちがワークブックにブロックを置いて学ぶことができるところが、初めて算数を学ぶ子どもたちの導入として非常によいと思いました。

また、3年生でつまずきやすいと思われる割り算についても、おはじきを使って視覚的にわかりやすく説明されており、内容的にも段階的に等分除、包含除から、ゼロや1の割り算へとつなげています。

3年生以上の全学年を通じて、単元の終わりに、学習のしあげには、たしかめようとならないでいこうがあります。たしかめようでは理解できたかを確認し、できなかったときには説明箇所のページ数が記載されているために、そこまで戻って学習し直すことができるようになっています。つないでいこうでは、同じ単元を視点を変えて違う角度から思考することができ、発展的な学習につながっています。

また、2年生以降の教科書では、巻末にプラスというオプション教材がついており、自ら必要に応じて取り組むことができ、答えもついているため、自習学習をすることができる点もよいと思いました。

以上の理由から、私は「東京書籍」を推薦いたします。

○高橋委員

高橋でございます。

算数は、「東書」を推薦いたします。

まずレイアウトが見やすく、わかりやすいということと、色遣いも工夫されていて、問題と考え方がはっきりしている点です。

今日の問題、学習のめあて、学習のまとめ、練習問題の構成は、学習がしやすいと思いました。キャラクターのアドバイスが要所に示されていて、理解が得られます。

学習のしあげでは、「生かしてみよう」学習したことを見の周りで使えるよう示されています。「たしかめよう」では振り返りができ、「つないでいこう算数の目」では大切な見方・考え方を学ぶことができます。

1年生の数の学習では、児童が使うブロックで表示されているのでわかりやすく、数字を書くときは升目になっているので、大きさやバランスを考えながら学ぶことができます。

「さんすうのとびら」は、スタートする学びが楽しくできます。

巻末には各学年の復習があり、練習問題で考えたり、振り返りコーナーで学習した内容を確認できます。

また、新しい算数では、練習が足りないと思ったときにやってみる「補充の問題」と学習をさらに広げたり深めたりする問題の「おもしろ問題にチャレンジ」があるので、じっくり考え、楽しみながらチャレンジができます。

以上の点で「東書」を選びました。

○弘瀬委員

弘瀬でございます。

私も、算数は「東京書籍」を選びました。

「東書」では1年生の本がA4と、ほかの教科書より大きくなっているので使い勝手が悪いのではないかなと思いましたが、実際に教科書を開いてみると、この大きさに納得しました。とじ目をフラットにしているため、ブロックを教科書の上に置いたときに、滑らずにきちんと枠の中におさまること、また、枠が10個横に並ぶ大きさの本であるということです。

3年生から4年生で算数が難しいと思い始めるころに、3年生の割り算が入ってきます。個人的には、等分除から教えていただけののがいいのではないかなというふうに思いました。

以上から、「東書」を選びました。

○教育長

私も、算数は「東書」を推したいと思います。

本区では、基礎的、基本的な学力の向上ということを教育施策の重点としておりますが、とりわけ積み上げが必要な算数については、習熟度別学習、それから復習教室などを重点的に取り組んでいるところです。

算数においては、問題をしっかりと理解すること、また、算数的な活動を通したり、自分で十分に考えて自分なりに解いてみることを、友達の考えを聞き合い、よりわかりやすく効果的なやり方について考えを広げること、また、何が身についたかを学習を振り返ることなど、問題解決的な学習を充実する必要があるというふうに思います。

「東書」は学びのとびらで示しているように、問題をつかもう、自分の考えを書き表わそう、友達と学ぼう、振り返ってまとめようという問題解決型の学習が明確に示されております。

また、本区では、電子黒板を各教室に配備して、本年度は算数習熟度別の特別教室にも配備してありますけれども、電子黒板を使って、問題の提示や友達と学び合う学習など、問題解決型の算数の授業について有効性を発揮できるというふうに考えております。

このような問題解決型の算数の学習を進めていく上で、「東書」がわかりやすく、学習が高まるというふうに考えております。

また、調査委員会の報告で、「東書」と「教出」は大田区学習効果想定において、比較的課題が見られたという図形の問題、変化と関係の領域について分量が比較的多く提示してあるというふうに報告がございました。図形や変化の関係の領域は理解することがなかなか難しい領域ですが、「東書」は、児童の考え方を助けるヒントや解き方についての項目が比較的多くあり、大田区の子どもたちのやや苦手とする領域においても適切ではないかというふうに思っております。

以上のような考えから、「東書」を推したいと思います。

それでは、審議のまとめに入ります。

算数におきましては、「東書」が最も評価が高かったということでまとめてよろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

○教育長

それでは、算数については、「東書」といたします。

続いて、理科について審議します。理科の発行者は、5者あります。

委員の皆様のご意見をお願いいたします。

○三留委員

理科は、「大日本」を推薦いたします。

理科は、各学年の教科書に、問題解決的な学習の過程の解説が載せられています。また、全体的に児童の問題発見を意識した記述が見られます。「大日本」は、問題、予想、計画、観察・実験、結果、考察という過程に沿って学習が進められるようになっていきます。特に「大日本」の場合、実験計画についてもよく触れていると感じました。

単元に入る前の2ページのリードページは、引きつけられる写真を載せるなどしていますが、児童の疑問や興味を喚起する内容となっており、問題発見につながっていくように感じました。

例えば、4年、天気と気温の学習では、同じアングルで撮った曇りの日と晴れの日を対比しています。このページと既習経験や生活経験などをもとに問題がつけられる構成となっています。また、5年の流れる水の働きと土地の変化において、やはり同じアングルの川の穏やかな流れと増水期の様子の比較、大雨が降ったときの写真が掲載されています。こうした取り上げ方は、問題発見につなげるために効果的だと思いました。

流れる水の働きと土地の変化では、洪水に備える工夫が3ページにわたって掲載されるとともに、巻末には、災害に備えようブックとして、避難場所や非常用品のチェックリストなどに触れています。災害避難カードもついています。横断的に、防災教育の内容を入れているのもよいと思いました。

また、確かめよう、学んだことを生かそう、深めようという発展ページも充実しています。例えば、3年の昆虫の育ち方の単元では、確かめよう欄で色塗りやシールをはるページがあり、理解を確かなものにすることができます。

単元の終わりに、りかのたまてばこ、サイエンスワールドというコーナーがありますが、児童にとって興味を引く話材を取り上げていると感じました。

各学年で、問題解決的な学習におけるノートの典型例やコンピュータや図書館の本で調べるページがあるのもよいと思いました。

4年生の教科書を中心に、理科室の使い方についても各社記載されていますが、大日本の内容もわかりやすいと感じました。

他者にもあるところがありますが、5年、もののとけ方の学習で保護メガネの活用をするなど、安全への配慮も見られます。

6年生では、電気の学習の発展として、各者、プログラミング学習を行っています。ど

の者も6年生として難易度が高い面もあると感じました。大日本は、発光ダイオードと明るさセンサー、人感センサーを使って、暗いときに明かりをつけたり、人が通った後に明かりをつけたりする仕組みについて4ページにわたって記述をしています。比較的取り組みやすい内容になっているのではないかと感じました。また、身の回りのプログラミングについても扱っています。

大田区の進めているICT教育に関わりのあるタブレットを使用した活動例を載せている場面の単元もあります。

その他、同一実験器具や理科室の使用が学年間で重複しないようにする単元配列の配慮もあり、私は、「大日本」を推薦することとしました。

○後藤委員

後藤でございます。

理科については、「大日本図書」を推薦いたします。理由は四つございます。

一つ目は、3年、16ページに植物の育ち方の単元がスタートします。ヒマワリとホウセンカの種まきをし、44ページで葉、茎、根について学習します。76ページでは花が咲いたときの学習、92ページで花が咲いた後の学習をするといった、季節を伴う一連の学習において、単元としたまとまった掲載ではなく、それぞれの季節に合わせた、また、植物が育つ過程に合わせた時期の掲載となっていることから、児童は季節と育ちの関連性を体験として身近に捉えることができる上、植物が育っていくといった見通しも立てられ、学習の楽しさや育てるという段階に意欲がもてると考えます。

また、「東京書籍」では、オクラとピーマン、ヒマワリの育ち方を学習し、大きいサイズの教科書、縦2ページにホウセンカがダイナミックに掲載され、この点についてはよいと思いました。

二つ目に、影と太陽の単元についてですが、「大日本図書」は、校庭で影の向きと太陽の向きを調べる実験において、自分の影をタブレットで撮影しています。大田区では、多くの数のタブレットを各校に配置していることから、発表の際などに使用することが望ましいと捉えるとともに、全ての学年にタブレットで撮影した資料を活用し、表現する形式が求められていることから、「大日本図書」の教科書が、児童にわかりやすく、また、教員にも指導の手だてとなると考えます。

また、このように、「地球」の領域の単元において、時間的・空間的な見方を働かせることが大切と捉えることから、時間について午前、午後などではなく、10時、12時、14時というように明示することが適していると考えます。

三つ目に、地面の温度をはかる観察では、学習指導要領でも示されているように、比較する上でデジタル化が重要といった点と、比較させることに重点を置くことが適切であると考えことから、温度計ではなく、放射温度計を基本の方法として示している大日本図書がよいと思います。

四つ目が、4年生から開始となる理科室での実験や実験器具の使用についてです。大日本図書では、学年間で重複しないよう、単元配列を配慮している点に評価をいたします。また、啓林館は全体的に内容がとてもわかりやすく、この点では、児童、教員ともに使いやすい教科書であると思います。

以上の理由で、私は、「大日本図書」を推薦いたします。

○深澤委員

深澤でございます。

私は、「大日本」を推薦いたします。

最後まで「学校図書」と「大日本」のどちらがいいのか迷いました。

「学校図書」は目次が單元ごとに縦に記載されているので、今どの部分を学習しているのかわかりやすいところと、写真が大変鮮明であるところがよいと思いました。

しかし、最終的に「大日本」を推薦したのは、まず構成の仕方について、問題、予想、実験、結果という流れは「学校図書」とほぼ同じですが、「大日本」は問題とわかったところは紫色、実験と結果は黄色の塗り潰しの枠で囲まれており、單元間の位置関係が把握しやすいところ、実験についてはやや太字、結論については大きな字の太字になっていて、結論が一目瞭然であるところがよかったからです。

また、実験についてですが、4年の電池のはたらきのところで、乾電池の向きを反対にするとモーターの回る向きが変わるかという單元があり、そこを例にすると、「学校図書」では丸型のプロペラを使用しているので、プロペラの動きに変化があったかどうかは風の向きを確認しないとわからない。しかし、「大日本」は、四枚羽のプロペラを使用しているために、プロペラの動きを見れば教科書上でもモーターの動きに変化があったことがわかります。同じ実験でも、「大日本」のほうが子どもたちにわかりやすい実験や実験に関する記述が多いと思いました。

また、5年の電磁石では、私たちの生活にどのように電磁石が使われているかということをもロボット、携帯電話、リニアモーターカー、電気自動車などを挙げて説明しており、身近な生活の中で理科がどのように生かされているのかを子どもたちに示しています。

全般的に、子どもたちが理科に対して興味を抱く工夫がなされていると思いました。

以上の理由から、私は「大日本」を推薦いたします。

○高橋委員

高橋です。

理科は、「大日本」を推薦いたします。

まず学習の流れが色分けしてあり、はっきりしてわかりやすいことです。

「見つけよう」では問題を見つけること、「調べよう」は予想しよう、計画を立てよう、観察・実験、結果と過程が、写真とイラスト、お友達のコメントでわかりやすく学習できます。「伝えよう」は考察、結論で学習したことを整理したり、まとめたりするようになっています。特に話し合いの仕方がきちんと示されており、参考になります。

3年の「影のでき方と太陽の位置」は、影の向きと太陽の向きを調べる実験では、校庭の自分の影をタブレットで撮影しています。大田区では、タブレットPCで発表する形が適しています。「ひなたと日陰と地面の様子」は放射温度計を使用する方法がとられています。温度計と比べて安全な方法だと考えます。

4年の植物教材がゴーヤである点は、グリーンカーテンとして活用でき、身近な教材であり、食用としても利用できることを学べます。

理科室の使用や実験器具が学年間で重複しないよう、単元配列が配慮されています。巻末の理解のノートの書き方は、整理しながら記入できるよう示されていて、参考になります。

理科室については決まりから始まり、使い方がわかりやすく書かれています。

各学年のまとめ、チャレンジ問題があり、振り返りができることがいいと思いました。

以上の点で、「大日本」を選びました。

○弘瀬委員

弘瀬でございます。

理科は、「大日本図書」を選びました。

初めに、気づいたことを話し合ってみようと思われていて気づきを大事にしていること、3年生、4年生では問題に対してわかったことに問題解決の過程をきちんと書く、5年生、6年生では結論をきちんと導くようにしてあります。

理科のノートの書き方、観察カードの書き方がきちんと説明してあること、単元末の「たしかめよう」では、実際に答えを書き込めることによって振り返りができ、短時間で復習ができるようになっていると思います。

多くの写真が載っていて、実験がしやすいと感じました。

理科のたまたまこは、知識を深めるのにとっても役立つと考えられます。

実験では、注意マークと説明文が赤で強調されています。

また、発展として中学で学習する内容なども描かれていて、連続性があってよかったと思います。

巻末に、理科室の使い方、実験器具の使い方がきちんと描かれています。

また、新学習指導要領に基づき、6年生の理科のプログラミングが取り上げられていることなどから、「大日本」を選びました。

○教育長

大田区では、理科教育、ものづくり教育の推進を、一つの大きな施策の柱にしているところでございます。

理科については、特に観察・実験の充実が大事だと思っております。全小学校に、今、理科支援員を配置して、理科の実験・観察の充実を図っているところです。そういう意味で、理科の観察・実験が充実するという視点で、教科書を見させていただきました。

その中で一番丁寧に扱っていると感じたのが、「大日本」でございます。「大日本」では、問題、それから予想、計画、観察・実験、結果、考察、結論というように、学習過程が非常に丁寧に細かく、わかりやすくなっております。

特に大事であると思ったのが、実験や観察の計画を立てる前に、予想が位置付けられているところです。それから実験・観察の後に、考察という学習活動が位置付けられております。実験・観察を行う前によく考える、科学的にいろいろ考えてみるという予想を立てること、それから経過から十分に結論を出すために考察するということはとても大事であると思いますし、そのことがしっかりと位置付けられているというところで、「大日本」は優れているのではないかと思います。

また、5年生の発芽の条件というのがありますけれども、そこでも、観察の仕方、5年生では条件制御ということが観察・実験のときに大事だと学習指導要領に示されておりますけれども、非常に、肥料のあるもの、ないもの、日光の当たるもの、当たらないものというものが結構わかりやすく出ていて、考えやすいと思いました。

また、5年生のメダカの誕生というところでは、メダカの卵が受精した直後から殻を破って出てくるところまで、別の角度も含めて様々な写真、12枚の連続写真になって、これも観察、なかなか子どもたちが十分に観察できないところを補うというものであり、いい資料であると思いました。

そういう意味では、「大日本」が実験・観察において一日の長があると感じました。

それでは、理科について審議のまとめをさせていただきたいというふうに思っています。

理科につきましては、「大日本」が評価が高かったということでまとめてよろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

○教育長

それでは、理科については、「大日本」といたします。

それでは、以上で本日の教科用図書採択についての審議を終了いたします。

次回は、明日、8月8日、午後2時に開催する臨時会において、生活、音楽、図画工作、家庭、保健、英語、道徳の7種目について審議を行いたいと思います。各委員におかれましては、引き続き調査・研究をお願いいたします。

なお、令和2年度使用大田区立小学校教科用図書採択につきましては、議案の決定をもってなされるため、明日の審議終了後に議案の提出がなされ、議決をいただく予定でございますので、申し添えさせていただきます。

それでは、これもちまして、令和元年第8回教育委員会定例会を閉会といたします。

(午後3時46分閉会)